

指導の土台

しつけの土台

意識していること

「笑顔で始まり、笑顔で終わる」授業を心がけ、先生も子どももうなずいたり相づちを打ったりして、共感したり受容したりする雰囲気をつくっている。



笑顔で授業をする



静かな状態で話を聞く



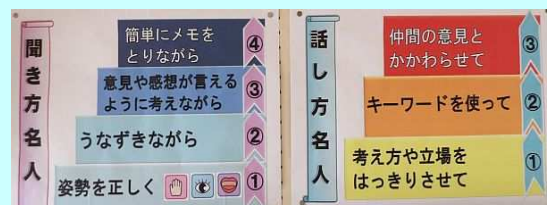
よい姿勢で本を読む

聞き方・話し方の約束

聞き方・話し方や姿勢などの態度を意識させることで、授業中の集中力はかなり高まる。そのために、発達段階に応じて、徐々に身につけられるようにレベルや表現を変えて教室の前面に掲示した。また、レベルを数値化することで、児童それぞれにあった目標立てをすることができるようになった。これは、社会人としての土台にもなるものである。



低学年の掲示



高学年の掲示

デジタル教科書の活用

本校では、昨年度よりデジタル教科書を活用している。特に、4年生では導入の際に活用して児童の興味を引き出し、課題の提示をしている。

6年生の歴史の授業は情報量が多いため、動画を使って資料の説明をすることで効率よく理解を深めたり、その後の話し合い活動の時間を確保したりするのに役立っている。



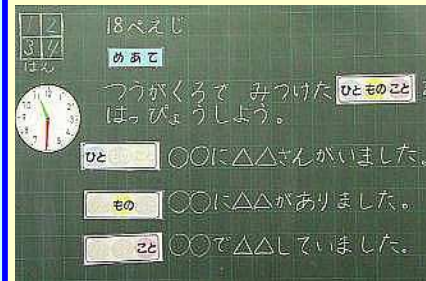
デジタル教科書の活用

テンプレートの活用

「めあて」「考え」「大事」「問題」「まとめ」のテンプレートを各教室に用意し、児童から出された多様な発言を焦点化することで、わかりやすい授業を目指した。

また、地域の「ひと・もの・こと」という視点を意識づけるために、「ひと・もの・こと」のテンプレートを用意した。

1年の生活科「がっこうだいすき」では、学校の施設の様子（もの）や、学校



テンプレートを活用した板書

生活を支えている人々（ひと）を意識した授業を行った。児童は、校舎内の自分の興味をもった場所へ探検に行き、そこにあるものやその役割について調べたり、先生方に学校や仕事のことを聞いたりした。「ひと・もの・こと」を意識させることで、自分が担当する教室について着目すべき視点が明確になり、詳しく調べることができた。



テンプレート（低学年用）

ICT機器（ぼうけんくん）の活用

3年生社会「店ではたらく人」では、スーパーマーケットの見学の時、働く人の写真や売り場の様子を写真カメラで撮影した。これを授業で掲示し、それぞれの写真に対応するスーパーの人の工夫を見つけさせた。見学後のため、「あそこの写真だな」「あんな工夫があったな」とイメージがつかみやすくなった。最後に、働いている人のインタビューの動画を子ども達にみせた。お店の人の気持ちや思い・願いを聞き、学習を深めることができた。



教師のICT（ぼうけんくん）活用

5年生家庭科の授業「ひと針に心をこめて」の単元では、ボタン付けや本返し縫いの仕方などの手元を拡大して説明した。手元が拡大して大型テレビに映し出されるため、初めての手縫いではあったが、誰もが容易に理解し、手縫いの仕方をしっかりと身につけることができた。



児童のICT（ぼうけんくん）活用

話型の揭示

地域の「ひと・もの・こと」について児童が主体的協働的に話し合う活動が大切である。このため、自分の考えを相手にわかりやすく整理して伝えたり、発表したりする力が必要である。

そこで、発言する際の話型を設定し、話し合ったり、発表したりするようにした。このことにより、児童は自信をもって発言ができるようになり、活発な話し合い活動が可能になった。

さらに、授業内にとどまらず、瑞鳳小ふれあい子ども会議において、グループで出された意見を、「これらのことから・・・」と、まとめたり、「これらの意見の中で僕たちが注目したのは・・・」と、焦点化して発表したりすることができるようになった。参加した地域の方々から「とても上手にまとめたね」「すごいね」「司会進行、意見のまとめ方、発表力、とてもよかったです」という感想が寄せられた。

意見を関わらせる型

- ～さんと似ていて①
- ～さんとは違って①
- ～さんと同じですが、理由が違って②
- ～さんの意見を聞いて、②
- ～さんに聞きたいのですが、（確認したいのですが）
- ～ということですか？②



指示棒を使って説明する様子

発言・発表の工夫

児童同士の意見交流を活発にしたり、互いの考えを正しく理解したりするために、発言者に対して全員が注目して聞く必要があると考える。このため、発言者はクラス全体が見渡せる場所に移動し、聞き手から自分の姿や表情が見えるようにしている。

また、発表の場面では、指示棒を使って資料を指し示しながら説明をすることで、資料のどこに注目させたいかや、資料と資料のどの部分を見比べたのかをわかりやすく伝えるようにしている。



指示棒を使って発表する



立ち位置を変えて発表する様子

尾張旭市立瑞鳳小学校 各学年の授業と 主な地域連携計画 (● ひと・ ● もの・ ● こと)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年		生活 ● がっこう だいすき ・みんなで つうがくろを あるこう									生活 ● もうすぐ 2ねんせい あたらしい 1ねんせい を しょうたいしよう	
2年	生活 どきどき わくわく ま ちたんけん ●●● ・まちのことを話そう ・まちにたんけんに行 こう ・まちたんけんの 計画 を立てよう		生活 ●●● もっと なかよし まちたんけん ・もういちど まちたんけ んに 行こう		生活 ●●● つながる 広がる わたしの 生活 ・まちの 人となかよく なろう ・まちの すてきを つた えよう		生活 ●● うごく うごく わたしの おもちゃ ・あそびかたを くふうし よう			生活 ● あしたへ ジャンプ ありがとう はっぴょう かいを ひらこう		
3年		社会 ●●● わたしのまち みんなのまち		国語 ● 気持ちが伝わる 手紙を書こう	総合 ●●● 食生活を考えよう②	総合 ●●● はたらく人 から学ぼう 社会 ●●● はたらく人 ちのくらし		国語 ● おもしろいと思うところ をしょうかいしよう	総合 ●●● 昔の暮らしを体験し よう②	音楽 ●● 日本の楽器に親し う	理科 ●● つくってあそぼう 国語 ● カンジー博士の音訓 かるた 社会 ●●● かわってきた人々の らし	算数 ●● そろばん
4年	社会 ●●● くらしを守る ・火事からくらしを守る 総合 ●●● 命を守ろう① ・地域防災		社会 ●●● 住みよいくらしをつく る ・ごみのしよりと利用	理科 ● 夏の星		社会 ●● きょう土の つくす ・用水を引 水ー	● はってんに くー愛知用	国語 ●● 説明の仕方を工夫し て、分かりやすく伝え る文章を 書こう	理科 ● 自然のなかの水のす がた 社会 ●● わたしたちの県 ・県のひろがり	理科 ● 冬の星	社会 ●● わたしたちの県 特色ある地域と人々 のくらし	
5年	家庭 ●● わが家に ズームイ ン!		総合 ●●● 米づくりをしよう 社会 ●●● わたしたちの生活と 食料生産 ・米づくりのさかんな地 域	国語 ●●● 夏の夜	国語 ● 考えを明確にして話し 合い、提案する文章を 書こう 理科 ● 台風と天気の変化 社会 ●● わたしたちの生活と食 料生産 ・これからの食料生産と わたしたち	体育 ●● 心の健康 理科 ●●● 流れる水 社会 ●● わたした 工業生産 ・自動車を つくる工業	国語 ●●● 秋の夕暮れ 国語 ●● 理由づけを明確にして 説明しよう 家庭 ●● めざそう 買い物名人 総合 ●●● 福祉の心	保健 ●● けがの防止 家庭 ●●● 物を生かして 住み やすく 総合 ●●● 保育士体験	国語 ●● 事例と意見の関係 おさえて、自分の えをまとめよう	国語 ● 説得力のある構成を 考え、すいせんする ピーチをし よう 国語 ●●● 冬の朝		
6年	国語 ●● 立場を明確にして主 張し合い、考えを広 げる討論をしよう 家庭 ● 朝食から健康な1日 の生活を ・いためて朝食のおか ずを作ろう	国語 ●●● 町のよさを伝えるパ ンフレットを作ろう 体育 ● 病気の予防 社会 ● 今に伝わる室町文化 ・水野又太郎良春につ いて3人の武将と天下 統一 ・毛受勝助について	国語 ●●● 夏のさかり 算数 ● 図形の拡大と縮小 家庭 ●● 夏をすずしくさわやか に ・手洗いで洗濯をしよう 総合 ●●● 調べよう地域の文 化・歴史①	理科 ● 太陽と月の形 国語 ●● 意見を聞き合って考え を深め、意見文を書こ う 社会 ●● 明治の国づくりを進め た人々 ・良福寺の寺子屋につ いて	国語 ●● 自分の感 朗読で表 家庭 ●● 思いを形 生活に 製品	● じたことを 現しよう ● に 役立つ布	国語 ●●● 秋の深まり 社会 ● 長く続いた戦争と 人々のくらし 家庭 ● まかせてね 今日の食 事	社会 ● わたしたちの生活と 政治 ・市役所の働き ・税金の働き 総合 ●●● 体験・日本の文化	国語 ●●● 随筆を書こう 社会 ●● わたしたちのくらし 日本国憲法 社会 ●● 世界の未来と日本 役割 ・平和宣言都市として 尾張旭市 算数 ● 考えを広めよう、深 よう ・割合を使って		国語 ●●● 卒業するみなさんへ ・学習成果について交 流会をする	

＜授業の基本的な流れの実践＞

① つかむ力（生活から課題を把握）

5年生国語「すいせんします」の学習では、課題設定する場面で、身近な地域の「ひと・もの・こと」をテーマとして取り上げた。地域の「ひと・もの・こと」について知っていることを、児童同士が互いに意見を出し合うなかで、これから調べて推薦してみたい事柄について、児童自ら課題を設定することができた。

身近な事柄を課題にしたことによって、その後の学習では、地域の「ひと・もの・こと」について、家族にインタビューをするなど興味を持って調べ、意欲的に推薦文を書くことができた。



地域のことを洗い出す板書

② つなぐ力（様々な考えをつなぐイメージマップの活用）

6年生国語「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」の学習では、尾張旭市のよいところについて、ブレインストーミングを行い、様々な異なる意見をつなぎ合わせてイメージマップを完成した。この活動を通して、子ども達は地域の「ひと・もの・こと」について視野を広げたり、関連性に気付いたりすることができた。その後のパンフレットのレイアウトを考える段階では、イメージマップを参考にして同じページに関連する内容を盛り込み、地域の多様な情報を掲載したパンフレットを作成することができた。



イメージマップを使って



6年生が作成したパンフレット

③ 創り上げる力（議論したり協働したりして、課題を解決する学習）

3年生では、社会科の学習で校区探検を行い、瑞鳳校区にはどんなお店があるか、どんな公共施設があるかなどを調べた。そこで、各自で調べたことをもとに、小グループで協力しながら校区地図を完成させた。また、作った校区地図を見て、どんな特徴があるかを小グループで話し合った。グループで話し合うことで児童は多様な考えにふれることができた。また、全体で発表できない児童も自分の考えを話すことができた。



話し合いの様子



学校探検後の校区地図

④ 伝える力（身近な人々に自分の思いや考えを分かりやすく伝える学習）

1年生道徳「かえりみち」の学習では、展開前段で話し合った「感謝」に関する価値観をもとに、この学習を通して、子ども達は、自分たちの登下校を守ってくださっているスクールガードさんや交通指導員さん、同じ通学団の上級生たちに、改めて感謝の気持ちを深めることができた。この気持ちや思いを「ありがとう」の手紙で書き表すことができた。これらの手紙には、子ども達の感謝の気持ちがたくさん込められていた。また、学習後には、「先生、今日ね、『ありがとう』って言えたよ」とうれしそうに話しに来る児童の姿も見られるようになった。



安全に横断させるスクールガード



「かえりみち」の授業の板書



スクールガードさんへの手紙

⑤ 続ける力（課題解決したことを地域や生活で活用し実践し続ける活動）

4年生社会科「ごみ処理」の学習では、各家庭から出るごみの種類やごみ置き場について自分たちで調べた。ごみの分別の学習の際には、学校の前のごみ置き場の様子を見たり、実際に尾張旭市のごみ出しカレンダーを利用してどんなごみや資源に分類されるのかを考えたりした。児童からは、「分別することで収集する人の気持ちを考えることができた」

「こんなにごみの種類があって、ごみを出す日が違うことを初めて知った」
「プラスチックの製品がプラゴミではないということを知った。もっと分別したくなった」
など、興味深い意見が多く出た。

その後、晴丘ごみ処理場へ見学に行き、ごみの行方やごみ処理場の工夫について学習を深め、学習したことをもとに「晴丘新聞」を書いた。ごみ処理の学習を通して、

①教室のごみが、プラゴミや新聞紙などに分別され、きれいにされるようになり、児童たちに意識づけすることができた。
②製品についている「リサイクルマーク」に興味を持つ児童や「ごみ出しの手伝いを進んで行うようになった」

など、学んだことを実生活に生かし、実践し続ける児童が多くなった。



質問をする様子



説明を聞く様子